

～みんなにやさしいまちに～
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進事業 活動報告書
〈令和元年度〉



令和2年2月
さいたま市福祉のまちづくり
モデル地区推進部会

<目 次>

I. モデル地区推進事業	1
II. 大牧小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	13

I. モデル地区推進事業

1. 目的

- この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

2. これまでのモデル地区推進事業

- 平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区 : 高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区 : 仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区 : 桜木小（平成21年度）

- 平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改定し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区推進事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応しました。

- 下落合小（平成23年度）
- 大谷場中（平成24年度）
- 岩槻中（平成25年度）
- 大宮北小（平成26年度）

- 様々な地域における小中学校の協力のもと、年1回モデル地区推進事業を実施してまいりましたが、安定した参加者数を確保できない点が課題でした。

そこで、第3期（平成27年度から平成32年度）については、地域の自治会、民生委員・児童委員、PTA、保護者、地区社会福祉協議会、NPO等に対して働きかけを強化し、よりモデル地区推進事業を拡大することで、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指します。

- 神田小（平成27年度）
- 植水小（平成28年度）
- 海老沼小（平成29年度）
- 北浦和小（平成30年度）

3. 活動イメージ

- 児童や保護者、地域の方々とともに、当事者との交流、障害等の体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。
なお、小・中学校での学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

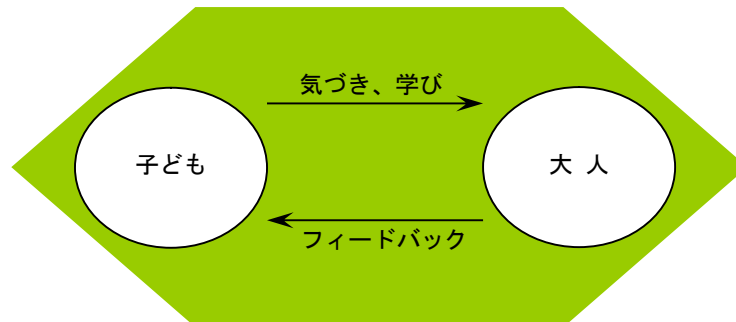
4. 組織

- 「さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、市民代表によって組織され、モデル地区推進事業を展開しています。

5 学び合いのイメージ

- 子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイデアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に広がっていく活動を想定しています。

学び合いのプロセスを地域に広げていく



Ⅱ. 具体的活動内容

モデル地区推進事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす保護者や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や関係者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

令和元年度は、緑区にある大牧小学校に協力をいただいて実施しました。

大牧小学校での取組について

大牧小学校では、4年生（90名）を対象に実施しました。

（1）取組の概要

【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体、NPO団体、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、市社会福祉事業団などが参加しました。

【テーマ ～みんなで歩むこれからの大牧～】

大牧地区とプラザイースト、バリアフリーの整備状況が異なる2つの箇所を比較するなど、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようになっていってほしいかを考えていきました。

【実施計画】

過程	子ども達の活動	
ふれる	<u>ふれあい学習</u>	・高齢者や障害者の方と接し、バリアフリー等についてより詳しく知る。 ⇒課題決定
つかむ	<u>まち歩き学習</u> 自分たちのまちについて考える	・どのようなところにバリアフリーがあるか。 ・バリアフリーが必要な場所はどこか。 ・自分たちにどのようなことができるか。 ・自分たちのまちに課題はないか。

深める	プラザイースト見学	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインやバリアフリーで身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。 ・大牧地区とプラザイースト、バリアフリーの整備状況が異なる2つの箇所を比較することで、「皆が住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようなようになってほしいかを考える。
	調べる 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ人の、よりよい生活の仕方を考える。 ・街中の施設や店、駅、道路にされている工夫などを調べ、自分たちのまちに生かせないか考える。 ・バリアフリーやユニバーサルデザインについて考える。
まとめる	『みんなで歩むこれからの大牧プラン』を考える 自己学習	<ul style="list-style-type: none"> ・大牧地区に住む全ての人々にとって、「便利・住みやすい・安心」なまちはどのようなまちか、その方法を考える。 ・これからどのように歩いていくか、自分なりに考える。 ・自分たちがすぐにでもできること、ということを考える。 ・偏見や差別をしないこと、知らない人にも教えること、正しく使うこと。
	学習発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通じて感じたことを交流しあい、自分ができそうなことに取り組んでいく意欲を高める。



(2) ふれあい学習

日程：令和元年6月13日（木）

会場：大牧小学校各教室・体育館・多目的室

参加者：児童、保護者、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括浦和しぶや苑、尾間木地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について関心をもち、その特性などを理解する。

【ねらい】


- ・自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを、交流を通じて理解する。
- ・疑似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知る。

⇒児童や周りの大人が、普段なかなか出会ったり関わったりしない方との交流により、当事者について考えたり、気づいたりできる「きっかけ」にする。

【活動内容】

- 当事者等が自身についての話をし、自分達の生活や想いを児童に伝えました。
- 当事者が普段使用している道具に触れるなどの各体験等の学習を通して、それぞれの特性について理解を促す。

⇒児童の関心をさらに引きつけ、生活についてイメージできる「きっかけ」にする。

	学習内容	学習の様子
視覚	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組となり、アイマスクと白杖を身に付け視覚障害の体験と介助者の役割も体験し、声掛けの大切さを学びました。 ・児童が当事者へ質問し、外出時に注意していることや食事のとり方など、日常生活について学びました。 	

<p>聴覚</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童と講師が、手話によるあいさつや自己紹介により交流をしました。 ・ チャイムを押すと来客を知らせる器具など、日常生活について学びました。 	
<p>知的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストボードや身近なキャラクターなどを用いて、知的障害について理解を深めました。 ・ 写真を用いて当事者について学びました。パニックになったときでもやさしく見守ってほしいことなどを学びました。 	
<p>車いす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当事者や講師からの話を聞き、車いす使用者の生活状況や、必要な支援などについて学びました。 ・ 二人一組になり車いす体験と介助の仕方を学ぶほか、電動車いす体験をしました。 	
<p>高齢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者疑似体験グッズを身に付け高齢者の日常動作を体験しました。高齢者との接し方についても学びました。 ・ 講師からの話を聞き、高齢者の身体状況などについて学びました。 	

(3) まち歩き (小学校周辺)

日程：令和元年10月7日(月)

会場：大牧小学校周辺・体育館

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括浦和しぶや苑、尾間木地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・ 障害等の体験により歩きなれた道（大牧小学校周辺）について視点を換えることでギャップを実感する。
- ・ 当事者の方と交流しながら歩き、その方たちがどのように感じているのか知る。
⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけ、気づきを促す。

【ねらい】

- ・ 実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解する。
- ・ 一人ひとりの能力がハンデの原因ではなく、環境（バリア）が、ハンデを生むことに気づく。

【活動内容①】

○学校周辺のまち歩き

グループに分かれて、子ども、当事者の方などと共に歩き、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、歩き慣れた道におけるバリア等について、多くの気づきを得られました。



【活動内容②】

○グループミーティング

まちを歩いてみて感じたこと、考えたことを情報共有することで、そこから派生するさまざまな意見交換を実施しました。



(4) まち歩き (プラザイースト)

日程：令和元年11月6日(水)

会場：プラザイースト

参加者：児童、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体： NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、NPO 法人ライフアシストファミリーッシュ、尾間木地区社会福祉協議会、プラザイースト職員

内 容

【目的】

- ・大牧地区とプラザイーストのバリアフリーの整備状況が異なる2つの箇所を比較することで、「だれもが住みよいまち」について深く実感し、自分達のまちがどのようなになっていってほしいかを考える。
- ⇒自分たちのまちを住みよくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけや気づきを促す。

【ねらい】

- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーについて、身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。
- ・バリアフリーの整備状況が異なる箇所を実際に歩くことで、バリアやバリアフリーについて理解を深める。

【活動内容】

○プラザイースト施設の点字ブロックやエレベーター、多機能トイレなど、バリアフリーの整備状況について、まち歩き体験を行いました。

○だれもが住みよいまちにするためにどのような工夫がされているか学びました。



(5) 学習発表会

日程：令和元年12月5日（木）

会場：大牧小学校体育館

参加者：児童、保護者、地域の方、障害者団体等

講師等協力団体：

NPO 法人さいたま市視覚障害者福祉協会、さいたま市聴覚障害者協会、一般社団法人さいたま市手をつなぐ育成会、NPO 法人ライフアシストファミリッシュ、地域包括浦和しぶや苑、尾間木地区社会福祉協議会

内 容

【目的】

- ・自分たちのまちを「皆が住みよいまち」にするためにはどうすればいいのか、考え、行動していく、という福祉のまちづくりを地域に拡げていくきっかけとする。

【ねらい】

- ・児童の豊かな感性から生まれるアイデアや気づき、子どもだから言える素直な意見を大人たちに伝え、大牧地区に住む全員が考えるきっかけにする。

【活動内容】

- 体験等の経験をもとに、大牧地区の課題等に対する自分の考えを発表しました。
- 大人から感想や質問によるフィードバックを受け、学び合いを行いました。

発表の様子



発表資料 児童が調べ考えた「みんなで歩むこれからの大牧」のプラン



(6) 今年度の事業を終えて

大牧小学校におけるモデル地区推進事業については、ふれあい学習、学校周辺のまち歩き学習のほか、プラザイーストでのまち歩き学習の実施、児童の学習発表会ではグループ発表や質疑・講評の時間を設けるなど、昨年度に引き続き、学校や関係者の協力を得て、事業を実施することができました。

学校周辺のまち歩き学習では、昨年度コースの設定について、段差などのバリアが感じとりにくいとの意見をいただいたことから、今年度は階段や坂道、段差など起伏のあるコース設定を行い、バリアについてより深く学ぶ機会とすることができました。

学習発表会では、児童の声が届きづらいなどの課題があることから、一度に発表するグループ数を減らし、昨年度より改善を図りました。また、発表会には多くの保護者の方にご参加いただき、福祉のまちづくりについて児童と共に学び合うことができました。

一方、改善されたものの学習発表会において児童の声が少し届きづらいなどの課題が残るところでございました。今後も、学校側をはじめとして、各関係団体等の理解と協力を得ながら、事業の改善・充実を図っていきます。

さらに、学校主体で事業が継続されるよう、各関係団体等の協力をいただきながら必要な支援を行っていきます。

参加者の声から

ふれあい学習 参加者アンケート（抜粋）

6月13日（木）

1 今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・ハンデのある方といろいろな体験ができ、参観させていただき、気持ちを新たに気づいてあげられるといいなと思いました。
- ・どの回とも、生徒はしっかりと講師の話を聞いており、一生懸命学習していた姿が印象的でした。
- ・多彩な内容で興味深かった、特に「知的」は私が初めてだったので関心がありました。
- ・数年ぶりに参加させていただきましたが、各講師のレベルが上がっていてびっくりしました。また、各教室でパソコンを見られる環境が整い、子どもたちにわかりやすさが増していると思いました。
- ・大牧小学校の生徒さんの礼儀の良いことに感心感動しました。どの生徒さんも「よろしくお願いします」終わりに「ありがとうございました」これは常に出している「ことば」だと思います。とても感動しました。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- ・「近所にも高齢者がいらっしゃるので、困っていたら声をかけてみたい。」
- ・体験学習後に、今度困っているお年寄りがいたら「大丈夫ですか」と声をかけたいと言っていたのが印象に残りました。
- ・車いす体験で、段差のある手前で「段差があります」と車いすに乗っている子に声がけできていて良かったです。
- ・「声をかけてあげよう」「やさしくしてあげよう」という言葉が印象に残っています。
- ・知的障害についての学習の中で、「みんな違ってみんなよい」という講師の方からの言葉を受けて、「差別しないようにしたい」ということを話したことです。

3 次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・時間的な制約もあるが、今回の5種類すべてを我が子に体験してほしいと思いました。
- ・前年度は質問が多く、時間が足りなかったぐらいでしたが、今回は質問もなく、時間配分が悪かったので、そういう時ちょっとした話が出来たらと思います。
- ・写真やビデオなど具体的な記録があった方が良かったです。すべてを作り上げるのは大変であったと思います。
- ・白杖を持つてのアイマスク体験だけではなく、点字体験などもいいのではないかと思います。

ふれあい学習 児童アンケート（抜粋）

- ・いろいろな障害のある人の気持ちや思っていること大変さがよくわかりました。
- ・みんなで障害を負っている人をすこしでも楽にしてあげたいです。
- ・車いすに乗るのにも大変ということがわかりました。
- ・聴覚障害は、手話で名前を教えるから結構大変だったけど、いろいろ学べてよかったです。
- ・「手話」「言葉」それぞれ使いやすい言い方が違うことがわかりました。
- ・知的障害は、「みんな違ってみんないい」それぞれの得意分野などが違うこともわかりました。
- ・高齢者での体験で、衰えたりして生活が難しいということが体験でわかりました。
- ・障害のある人、高齢の人は話しかけたり歩いたりするのはとても大変だと思いました。今度困っている人を見かけたら声をかけたいです。
- ・車いすの人たちは坂道や段差が大変で、目の見えない人は料理などが大変なことがわかりました。
- ・目の不自由な人がどのくらい大変なのかがよくわかりました。
- ・障害者がとても大変なことがわかった。でもとても親切だった。やさしくしてくれたのが1番嬉しかったです。
- ・耳の不自由な人、車いすの人でも普通の人がサポートすればできることを知った。
- ・人を区別せずに、人は人という自然な人の見方で暮らしていきたいです。
- ・アイマスクをつけてみてそんな苦勞をしていたんだなとわかりました。
- ・耳の聞こえない人みたく耳をふさいで耳の聞こえない人がどんな苦勞をしているのかもっと知りたいです。
- ・障害のある人たちを、「差」をつけるのはだめだと思いました。
- ・これからは、障害のある人の気持ちになったりしたいです。
- ・不自由な人はこんな大変な生活をしているなか、わたしたちは不自由な人たちに工夫して暮らしやすさがあればいいなと思いました。
- ・障害のある人がいたらぜひ助けたいと思います。
- ・知的障害で、障害がある人は、話すことと会話することが苦手で、障害のある人との、悪い話し方や良い話し方がわかって面白かったです。
- ・知的障害の時、最後に教えてくれた人たちが「みんな違ってみんないい」と言っていて、その言葉が大切だなと思いました。
- ・高齢者の方はいつも手首や足首におもりをつけているかというぐらい歩きにくいのがわかりました。
- ・障害者や高齢者が困っていたら、助けようと思います。
- ・いろいろな体験や話が聞けてよかったです。次やる時は、今日学べなかったことをたくさん覚えたいです。
- ・いつも感じないことや、今日初めて知ったことがたくさんあったので、これからの学習にいかしていきたいです。

まち歩き学習（学校周辺） 参加者アンケート（抜粋）

10月7日（月）

1 今回の授業（まち歩き学校周辺）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・生徒さんが一人ひとり熱心に授業を聞いてくれたおかげで、こちらも教えが良かったです。
- ・大牧小学校周辺は、区画整理が行われた地区で、もっと道路が整備されていると思っていたが、歩道が狭かったり、意外に段差が多いと感じた。
- ・最後のミーティング後の発表で、どのグループも「障害を疑似体験した事により、バリアが多く存在する事を知る事が出来た」との子供達の感想が学習の成果と思った。又、どうしたら、そのバリアを無くすか意見を持った子供もいて頼もしく感じた。
- ・4年生という年代が幼いような少し大人になったようなところがあり、どう接したら良いのか難しいような楽しい時間でした。子どもたちは、とても熱心でしたが、あまり質問もなかったのも、こちらからの話しかけが足りなかったかなと感じました。
- ・街を児童と歩いてみて、改めて感じる事があった。意外とバリアが多く、または中途半端なところが多いのに驚いた。公園でもスロープがあったが、それ以外は階段で事実上自由に使えなかったり、再度見直す機会になった。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・こちらが言った事を理解してすぐに実践してもらえて印象的でした。
- ・「自分が体験者の時は普通に歩いているつもりでいたけど、他の人が体験している姿を見ると歩きづらかったりしている様子がわかった。」と言っていたのが印象に残っています。観察力に感心しました。
- ・子供らしい感想もあったが、大人同様に気づきも多かったみたい。歩道がデコボコしている、狭いので介助の人と並んで歩けないなど。
- ・介助時の声かけの大切さ、街なかにあるバリアに気づいてもらえたようです。
- ・前回の教室での学習よりも、まちに出て「バリア」を探そうという意気ごみを感じた。

3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・まち歩きの時間がもう少し長い方がよかった。または、コースを短くする。
- ・今年に限らず、電動車イス体験後、「楽しかった」という感想が出ます。興味を持ってもらうことで今後の学びに活かさればと思うのですが、より深い考えに至るよう工夫しなければと思います。また、もう少し当事者や支援者を身近に感じてもらい、同じ地域に共に生きる人という思いをもっと伝えたい。
- ・もう少し当事者や支援者を身近に感じてもらい、同じ地域に共に生きる人という思いをもっと伝えたい。
- ・児童に教えるだけでなく、児童に「発見」「気づき」を育てる姿勢が必要では。事前に5分でも10分でもその意思統一の機会があってもいいと思う。

まち歩き学習（学校周辺） 児童アンケート（抜粋）

- ・身近なところでもよく考えてみるとものすごいバリアがあり、大変だと感じました。
- ・私たち僕たちは普通に歩いているけど、障害のある人達だと大変ということを感じました。
- ・学習で感じたことは車イスの人は段差や普段の生活でも苦労しているのだとわかりました。
- ・私たちにとっては普通の道だけど、障害がある人も安心して道を通れるようにしたいです。
- ・まちのバリアとバリアフリーがされている、まだされていない物や場所で、直したらいい場所がわかりました。
- ・障害者の方々はとても不安になることがわかりました。私達の中ではごく普通なことが苦労していて、地震の時なんかもっと不安になると思いました。
- ・道をまっすぐきれいにする。段差をなるべくなくす。
- ・たくさんの人がこんな苦労をしているのが、とても大変だと思いました。なので協力できるようにしたいです。
- ・車イスの介助役が大変だったし、乗るほうもちょっとだけ怖かった。すごい大変なことがわかりました。
- ・道路を歩く時にいろいろな工夫をしていることがわかりました。
- ・私は高齢者グループでおもりをつけながらまち歩きをしました。実際にやると体がすごく重くてひじが曲げられなくてこうなんだと思いました。
- ・目が見えなかったり、耳が聞こえなかった人たちにやさしくしたいなと思います。
- ・階段の手すりがないところもあるから、なるべく手すりを増やした方がいいと思いました。
- ・耳が聞こえない大変さや、怖さを感じることができました。
- ・歩道が狭かったから、電柱がないほうが通りやすいと思う。
- ・今まで、バリアフリーなんか考えたことがありませんでしたが、今回の学習を通じてだいたいわかりました。今の環境だったら、暮らさずらそうだから、もっとバリアフリーを増やす。
- ・目が見えない人は、何も見えなく大変だと思いました。
- ・車いす生活をしている方が質問に分かりやすく答えてくれたりしてくれたので良かったです。
- ・体が不自由な人は、どんなことを目印にしたり、どんな苦労をしているかがよくわかりました。
- ・障害者の目線から知ることができたのでうれしいです。
- ・身の回りの道路には、いろいろな危険もあったけど、介助さんがサポートしてくれたら安心しました。

まち歩き学習（プラザイースト） 参加者アンケート（抜粋）

11月6日（水）

1 今回の授業（まち歩きプラザイースト）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・改めて、施設のバリアフリーについて子供たちに説明することで気付くことができました。また、白杖体験を一緒に行い良い経験になりました。
- ・車イス用の駐車場やエレベーターの鏡など知っている事もありましたが、ホールの「磁気ループ」という設備は何度か利用した事があっても知りませんでした。排水溝も説明がされており、大変勉強になりました。
- ・介助者の子がこのような機会は初めてだったのですが、このような活動にすごく共感してくれました。今後も継続してほしいです。
- ・プラザイーストは何回も利用しているのにたくさんの新しい事を知りました。①ホールの11～10席の磁気ループ②南側の敷地から道路へ入るところの2段階の段差③車イス利用者用駐車場の脇のスペース④エレベーター内の鏡の意味など、児童と一緒に学ばせていただきました。
- ・説明をする側として、参加させていただき改めて学ぶこともありましたし、子供達に分かるように説明しなければいけない大変さも感じました。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・エレベーターやトイレなど「障害のある人を優先に使わせてね」というおねがいをすごく素直に聞いてくれたのが印象に残りました。
- ・スロープの角度、多目的トイレ扉の開き幅がもっとあれば良いなどの質問や意見がありました。
- ・多目的トイレに関して、他施設では 開 閉 のボタンがある。職員さんに「音声での案内はありますか？」と質問した子がいて感心しました。
- ・「水飲み場の位置が子どもや高齢者さんには高すぎるよね」、「敷地から道路へ出る時に飛び出さないように踏切みたいに遮断機をつけたらいいのに」、「つえ（白杖）は横に使うとブロックがわかりやすいよ」などの意見やアイデアに感心しました。

3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・車イスの方と生徒さんが直接関われる何かをお願いしたい。もっと生徒さんの声や意見が聞きたいし、私達も疑問に思っていることを答えていきたいです。
- ・私達職員がもっとバリアフリー等の意識を高める必要があると思いました。見学スケジュールに無理があったと思います。各所における説明時間を延長する必要があると思います。
- ・バリアフリーといっても完全型はないので、スパイラルアップが常時、求められていることを理解できると良い。
- ・トイレ休憩や水分補給の時間を取った方が良いと感じました。また、メモ（レポート）を各場所で書く時間を設けるため、各場所の時間を長めに設定するのも良いと感じました。

まち歩き学習（プラザイースト） 児童アンケート（抜粋）

- ・バリアフリーとは、障害者のバリアを無くすためにいろんなことをしていることがわかりました。
- ・手で押すと水が飲めるところの下は空洞でした。車いすの人がちょうど入れるスペースの工夫がありました。
- ・私達が何気なく使っているものにも実は、たくさんのバリアフリーがあることがわかりました。
- ・通路を二つ作ったり、いろいろな工夫がされていました。
- ・バリアフリーの工夫があったら使わない。
- ・車いすの人は、エレベーターとかトイレとか私たちは簡単にできるのに車いすの人には不自由なことがわかりました。
- ・生活の中には、いろいろなバリアフリーがあることが分かりました。生活の中のバリアフリーを見つけられてよかったです。
- ・僕も障害者の人にあったら助けたいです。
- ・私が住んでいるこのまちにたくさんのバリアがあったけど、それに対するバリアフリーがたくさんありました。
- ・狭い場所で通れない人もいるから、なるべく広いところを多くしたい。
- ・もっと調べて、バリアフリーのまちを作りたいです。
- ・プラザイーストには、いろいろのバリアフリーがあったんだなと感じました。
- ・すごく工夫されていました。「かんげき！！かんげき！！かんどう！！」
- ・今はバリアだらけだけど、みんながみんな協力したらどんな人たちでも暮らしやすい暮らしもできると思った。
- ・「バリアフリー」はいろいろなところで活躍していることが分かりました。
- ・プラザイーストのように、障害者にも利用してもらえる施設がたくさんできればいいなと思いました。私も他の人（障害者）を助けたいです。
- ・バリアフリーがたくさんありました。世界がもっと障害を持っている方のために工夫できたらいいと思いました。
- ・今日たくさんのバリアフリーを見つけられたので、他のところでも探していきたいです。また、困っている人がいたら、勇気を出して声かけてみたいです。
- ・こんなにもまちにバリアフリーがあったのがとってもびっくりしました。これからもバリアフリーを見つけていきたいです。
- ・点字ブロックの上に自転車とかがあると、目が見えない人とかが当たってしまうということが分かった。
- ・バリアフリーは困っている人がとっても便利なものだと、とっても思いました。なので、点字ブロックは通らないようにしようと思いました。
- ・知らないバリアフリーを知れてよかったです。もっと、知りたいです。
- ・もともとバリアフリーの意味は知っていましたが、今回の見学に行ってバリアフリーについて、もっと詳しくわかりました。

学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

12月5日（木）

1 学習発表会に参加してのご感想をお聞かせください

- ・今回は発表ということで保護者様が大勢参加されて、大変良かったと思います。又、児童達もいろいろな方の前で話すということは、これから先いい経験になったと思います。
- ・子供達が常に思いやりとやさしさを持って、将来も忘れないで成長してもらいたいと感じました。この心があればいろいろな立場の人に対して、社会が素晴らしいものになると思います。
- ・いままで、私達の話より自分達で調べた内容の発表が多かったが、今回私達の伝えた事や寸劇なども取り入れてくれて伝わっているなど感じて嬉しかったです。
- ・各グループごとでまとめ方や発表の工夫がなされていて、聞く側もたくさん学ばせていただきました。半年間でいろいろな方と触れ合い、調べ学習をし、子供たち1人ひとりの学びが深まったことが伝わってきました。
- ・生徒さん一人ひとりが積極的に学習に取り組んでいてくれて、非常にいい機会だと思いました。

2 児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・不自由しないまちづくりにとらわれず、人と人との関わり（心のバリアフリー）を重視して皆さん発表されていたのが印象深かったです。
- ・街の中の段差、階段などの障害は、皆さん気付いていましたが、乗り物の席を譲る際の言葉がけなどをクイズにしたグループがありとても良かったです。
- ・道幅を広げるや、階段にスロープを設置するや、車いす用の駐車場を増やすなど、具体的に考えられていたことがとても良かったと思います。
- ・「車イス専用の道路」「車いす専用のカーブミラー」等、我々にも発想できない素晴らしい気づきだなどと思いました。
- ・実際に体験したことと調べたことを結びつけながら考えているところが見えたので、体験が体験で終わることなく深い学びとなったのが良かったと思います。また、児童の言葉で「自分にとっては便利なものだけど使いにくい人もいる」という気づきをしていて、地域のこと福祉のことを考える時、一番大切なことだと思いました。

3 次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・小学生だけでは、経験した事の記憶も薄れてしまうので、中学・高校でもぜひ体験をやってほしいです。
- ・勘違いや誤解を生むような話し方、伝え方に気を付けたいと思いました。
- ・仕方ないのはわかっているのですが、発表の時間がもう少し多いと生徒さんとのキャッチボールたくさんできたかなと思いました。
- ・まちづくりのハード面だけではなく、もう少しソフトの「心のバリアフリー」について、当事者の理解度がより広まる関わりが増えるともっとありがたいと思います。
- ・体育館で一斉に発表するので、子供の声が小さいとほとんど聞こえない状況になる。出来れば発表の内容だけではなく発表の仕方にも力を入れて欲しい。

学習発表会 児童アンケート（抜粋）

1 これまでの学習でわかりやすかったところはどんなところですか

- ・体験をしたり、実際にプラザイーストに行ってみたりしたこと。
- ・色々な障害で困っていることが全然違って、わかりやすかったです。
- ・質問にあった答えをしっかりと説明してくれること。危ないところを1つ1つ止まって説明してくれること。
- ・実際に講師の方が、見せてくれながら教えてくれたりしたのが、わかりやすかった。
- ・「これが大変」ということだけではなく、理由もつけて詳しく説明してくれたこと。
- ・障害のある人が直接学校に来てくれて、教えてくれたところ。
- ・実際にまち歩きをしたところ。

2 これまでの学習でわからなかったところや、もっと知りたいと思ったところはどんなところですか。

- ・点字の読み方について知りたい。
- ・大牧小の周りだけではなく、他のまちの工夫も知りたい。
- ・介助の人がいない中の生活。
- ・生活、家での過ごし方。
- ・ユニバーサルデザインとバリアフリーの違い。
- ・全国のバリアフリーについて知りたいです。
- ・他の障害のことももっと知りたい。

3 自分たちのまちがこれからどのようになっていったら欲しいと思いましたか。

- ・障害を持つ人でも、高齢者でも、普通の人でも、使いやすいまちになって欲しいです。
- ・障害者の人達も住みやすく、不自由のないまちにしていきたいです。
- ・障害のある人がいたら必ず助けてくれる人たちが多くなってほしい。
- ・障害のある人のことを考えるまち。
- ・みんなの考えた工夫などが実際にできたりして、みんなが楽しく、暮らしやすいまち。
- ・みんなが住みやすく、明るく、誰でも話せるまち。
- ・だれもが住みやすく、みんなが歩む大牧にしていきたいです。

学習発表会 保護者アンケート（抜粋）

1 本日の学習発表会は、モデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。

- ・とてもよく調べていたと思います。こんな時、どのように接したらいいか、私もわからないことがあり、一緒に学ぶことができました。
- ・バリアフリーについて道などの物理的な物だけではなく、心のバリアフリーについても勉強しているところが良かったと思います。人を思いやる気持ちをきちんと持てたところが感心しました。
- ・普段関わらず知らないことがあったと思うので、この学習を機に理解を深めたことを行動できるといいなと思いました。
- ・児童が自分たちの目線だけではなく、高齢者、障害者に目線を合わせて考えていた姿が良かったです。私も道路をつくる立場として、様々な人に使いやすく利用しやすいように心がけていますが、改めて、すべての方に利用しやすいまちづくりを進めていきます。
- ・どの発表も、一生懸命調べて作られているのが伝わる素晴らしい発表会でした。講師の先生方のお話を真剣に聞く子供達の姿勢もとても素敵でした。
- ・半年間いろいろ学んで、体験して、昨日のまとめの発表はどの班も素晴らしかったです。更に高齢者の方や福祉施設の方々に発表を見ていただき、いろいろ言葉をいただくことで学習も深まったのではないかと思います。
- ・とてもよくリサーチし、発表できたと思います。普段の生活の中で障害者の方と関わることがほとんどありません。関わる機会がないから無関心となり、その人を避けるようになる。こわい人だと思ってしまう。ただ「知らない」というだけで差別が生まれ、負のサイクルができてしまう。この様な学習はどんどんやるべきです。今日の発表の中で「困っていたら声をかける」「障害者や高齢者が使いやすく工夫されている」というキーワードが出ていました。今後の生活の中で活かしてほしいと心から思いますが、まずは「その方々を知った」ということが大成功だったと思います。
- ・障害者、高齢者どちらについての発表も、設備の充実が必要だという内容に加え、今、自分たちがすぐできることは、周りをよく見て困っている人や助けの必要な人に自ら声をかける、その立場の人の気持ちになって考えるということをしていきたいという子供たちの思いが感じられました。自ら声をかけに行くことは大人でも勇気が必要です。私も子供と一緒に、そんな温かいまちになるよう行動していきたいです。
- ・子どもたちの発表に対し、講師の方々が受け入れながらやさしく感想やアドバイスをくださっていた。特に知的障害に対する理解は特に難しかったと思うけど、子供たちなりの素直な発表に対し、手をつなぐ育成会の方々が内容に対して〇（マル）でほめてくださっていたのが印象的でした。
- ・模造紙に書いて発表してくれたのは、分かりやすかった。障害者や高齢者への配慮が少しでも多くの人にできるようになったらいいと思います。発表の声が小さかったかなと感じました。
- ・どのグループも工夫してわかりやすくポスターを作り、きちんと発表できていたと思いました。特に車いすグループの発表を数回分聞きましたが、スロープの役割や道幅について、しっかり調べ、クイズも興味深いものを作っていたと感じました。
- ・バリアフリーは心を通わせることも大事ということが、ハッとしました。声をかけることから積極的に心だけできれば良いと思います。

発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電 話 048-829-1254

FAX 048-829-1961